

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																								
がん看護学演習Ⅱ	1	後期	2	演習 60時間																								
担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、吉岡多美子																											
授業概要	緩和ケアを受けるがん患者に対する様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。また、緩和ケアを受ける終末期がん患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門看護師の役割・機能について学修する。																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアにおける最新の知見や課題について説明できる。 2. 緩和ケアを受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3. 文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4. がん患者の抱える症状を緩和するための看護技術を実践できる。 5. 緩和ケアをサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。 6. がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する相談技術について、分析・評価できる。 																											
履修条件	特になし																											
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-3</td> <td>緩和ケアにおける最新の知見や課題</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>4-6</td> <td>緩和ケアを受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>7-10</td> <td>緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入(症状管理・援助技術)の探究 がん性疼痛など終末期がん患者が抱える全人的苦痛を軽減するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>11-15</td> <td>緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する。</td> <td>千葉</td> </tr> <tr> <td>16-17</td> <td>がん看護専門看護師の役割 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の活動の実際</td> <td>吉岡</td> </tr> <tr> <td>18-24</td> <td>症状緩和のための看護介入 アロマセラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。</td> <td>千葉</td> </tr> <tr> <td>25-30</td> <td>亀田総合病院において、がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する看護相談の実際の場面を見学し、相談技術について、分析・評価する。</td> <td>黒田</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1-3	緩和ケアにおける最新の知見や課題	岡本	4-6	緩和ケアを受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。	岡本	7-10	緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入(症状管理・援助技術)の探究 がん性疼痛など終末期がん患者が抱える全人的苦痛を軽減するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。	岡本	11-15	緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する。	千葉	16-17	がん看護専門看護師の役割 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の活動の実際	吉岡	18-24	症状緩和のための看護介入 アロマセラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。	千葉	25-30	亀田総合病院において、がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する看護相談の実際の場面を見学し、相談技術について、分析・評価する。	黒田
回	内容	担当教員																										
1-3	緩和ケアにおける最新の知見や課題	岡本																										
4-6	緩和ケアを受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。	岡本																										
7-10	緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入(症状管理・援助技術)の探究 がん性疼痛など終末期がん患者が抱える全人的苦痛を軽減するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。	岡本																										
11-15	緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する。	千葉																										
16-17	がん看護専門看護師の役割 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の活動の実際	吉岡																										
18-24	症状緩和のための看護介入 アロマセラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。	千葉																										
25-30	亀田総合病院において、がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する看護相談の実際の場面を見学し、相談技術について、分析・評価する。	黒田																										
教科書	なし																											
参考書	適宜紹介する。																											
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析(40%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。																											
事前・事後学習	<p>事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。</p> <p>事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。</p>																											
備考	<p>* 高度実践看護師コース(がん看護学)の学生のみ履修可。亀田総合病院での演習日時・方法については、別途説明する。</p> <p>* 吉岡の講義は遠隔で実施する。</p>																											